

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992500066		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム アベータ		
所在地	栃木県那須郡那珂川町馬頭2050-1		
自己評価作成日	平成22年9月27日	評価結果市町村受理日	平成22年11月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成22年10月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で過ごしていただき、ご自宅で利用していた家具、慣れ親しんだ物品などを持参して入居していただく事で、その人のこれまでの生活やご家族との関係を継続していただく事ができたと考えております。  
ご入居者が住み慣れた地域で、穏やかに潤いある毎日を送っていただけるよう支援に努めると共に、ご家族や地域の方々からもよりいっそう信頼される事業所でありたいと思っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら」を理念として掲げ、入居者のこれまでの生活を大切にしながら、共同生活をする事により、それぞれの持っている力を引き出し、生かしたいと考えている。入居者一人ひとりが欲しい物を買に行くなどの外出の機会を作りたいという職員からの提案もあり、実現に向けて準備中である。2カ月に1回、併設する小規模多機能型居宅介護施設と合同で運営推進会議を開催している。町の担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、家族、事業所代表、職員等が参加して、事業所の現状報告をする事にも、意見やアドバイスももらって運営やサービスの向上につなげている。会議で提案された「認知症サポーター養成講座」の開催が実現し、家族や地域の人たちに事業所のことを知ってもらう機会になった。今後さらに地域との交流を深めたいと考えている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」一人一人のその人らしさを・・・を理念とし、職員がそれを共有できるよう玄関前に掲示している。	理念に則り、時間を指定したスケジュールをこなすのではなく、入居者がやりたいことや出来ることをして過ごしてもらっている。共同生活することにより、既に自宅ではやらなくなっていた家事に積極的に取り組む姿も見られるようになった。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設のイベントに地域のボランティアを招待したり、出張理容を利用して、利用者の散髪を行っている。また、地域のスーパーから食材を配達していただいている。	9月末に事業所で「認知症サポーター養成講座」を実施した。家族や地域の方が20名ほど参加し、事業所(小規模多機能型居宅介護を併設)を知ってもらいきっかけとなった。近隣にも事業所のこと徐々に知られるようになり、入居者がホームからさまよい出たときも、ガソリンスタンドから知らせが入り、大事に至らなかった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々がいいつでも気軽に相談・見学ができるようにパンフレットやホームページ、地元の職員等を通して呼び掛けている。また、地域住民が参加できる認知症の研修会を行う予定である。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では 入居者数、介護度、年齢、地域 活動実績、行事報告を行い、意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護施設と合同で開催し、町の担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、入居者、家族、事業所代表、職員等が参加している。認知症のことをよく知りたいという家族の提案で、「認知症サポーター養成講座」が企画された。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町には、入居者に変更があった際など、その都度報告している。また、町の介護事業や運営推進会議等を通して、運営の指導を得ている。	開所当初は町の担当者が入居者について把握していない状態であり不都合が生じたので、その後、入居者の変更の際には連絡するようになった。施設長が町の「総合福祉計画」の策定委員に委嘱され、事業者の立場から意見を述べている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみに行っている。見守り・声かけ・寄り添いの実施により、身体拘束のないケアの実践に努めている。事業所のマニュアル等を通して研修会を実施し、よりいっそう身体拘束による弊害を理解していきたい。	ベッドや車椅子からの転落などもあり、ベッドをやめてマットや布団だけにした事例があり、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の自動ドアは敏感に反応するため、手動開閉にして、離脱事故を防いでいる。職員の言葉遣いで、指示的なものや命令口調も、拘束に当たるとして会議等で注意し戒めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルを通して研修会を実施。利用者の身体状況や表情等に十分配慮し、職員間で情報交換、共有を行うことで、早期発見、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開所前に研修会を行ったが、再度学ぶ機会を持ち、利用者に必要なが出た際には、活用できるよう支援したい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームという施設の役割を十分に説明し、理解、納得していただいた上で、署名・捺印をしていただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情処理担当者を設けて、いつでも対応できるよう努めている。契約時には、町や県の相談・苦情受付相談窓口があることも合わせて説明している。面会時や電話対応時には、不安や要望を話しやすい雰囲気を心掛け傾聴するよう努めている。	家族からの相談や苦情はあまり出ていない。家族の心配事のひとつは、入居者の身体状況がどんな場合に退居になるのかであり、その相談が寄せられている。	家族からの苦情や要望は、なかなか言い出せず潜在化する懸念もあるので、どんな些細なことでも受けとめる姿勢を示すよう、今後も心掛けていただきたい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員定例会議を行い、意見を出したり情報交換を行っている。また、施設長による個人面談を行い、個人的な事も話せる場を設けている。	職員は定例会や施設長との個人面談で、意見や要望を述べる機会があり、待遇や環境改善、入居者への支援・対応について提案している。職員からは、今後の課題として、入居者一人ひとりの要望に応じた買い物などの外出の機会を増やすこと、があがっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が生き生きと向上心を持って働けるよう、環境作りや条件整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内研修を行ったり、定期的に事業所外研修に参加する機会を作っている。また、地域のケアマネ連絡会にて定期的に研修を受けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同県内の地域密着型施設の同業者を招き、勉強会・情報交換を行っている。今後も相互訪問する機会を作り、交流の場を増やしていきたい。また、同法人の事業所間でも、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人やご家族に会って聞き取りを行い、生活歴・家族構成・病歴・ADL・介護状況・希望等をフェイスシートにまとめ、状態にあった支援ができるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前、契約時等に家族との面会を行い、不安や要望を聞く機会を作っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護保険を含めた社会資源の活用について情報提供を行い、相談に応じている。サービス導入前にグループホームでのサービス内容を理解していただき、納得していただいた上で、要望に添えるよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>昔の話や暮らしの知恵等を教えていただき、お互いに支え合っているという事を生きがいにしていただけるよう努めている。また、本人の身体能力に応じて、家事全般を職員と共にやっている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話連絡時など家族との関係を密にし、常に意見や要望を伺いながらケアに活かしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>出来る限り個別対応の支援を行い、地域の病院や美容室などを利用し、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。</p>	<p>職員は入居者の一人ひとりの生活歴や地域での役割、趣味等を把握し支援に当たっている。入居者の何名かは、馴染みの友人がホームに訪ねてくることがある。手紙を書くことが好きな入居者のためには、手紙を投函することを支援して、それまでの関係を断ち切らないようにしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士が打ち解けやすい環境となるよう、職員からの適度な介入を行い、共同生活の関係を築けるよう努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に収集したこれまでの生活歴等をもとに、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。自分のペースでその人らしい生活が送れるよう支援している。	入居前の担当ケアマネージャーからの情報や本人・家族からの聴き取りから意向や希望を把握し、ケアに活かしている。また、入居後生活を共にする職員の観察や会話から入居者の思いを汲み取り、家族が知らなかったことを発見することもあるという。共同生活することによって、例えば、以前は家事などしたことのない男性がすすんで下膳をするようになるなど、入居者の生活ぶりにも変化があるという。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの生活歴情報と関係事業所からの基本情報を照合し、一人ひとりのこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間・365日の支援により、一人ひとりの生活の様子観察を行い、暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の課題に対し、必要なケアのあり方について定例会議でカンファレンスを行い、意見やアイデアを活用した介護計画を作成している。	施設ケアマネージャーが立てた暫定プランに本人・家族の同意が得られたら、それを元に毎月の定例会で気づき等を報告し合っている。また毎日の申し送りで見守りや状態を確認し、何か変化があったときは大きな問題でないかぎりプランを変更せず、日々の対応を工夫してケアに当たっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の生活の様子を経過記録に記入し、バイタル測定値・食事・排泄・入浴・服薬状況等を詳細に記録して、変化や気づきを共有しながら、実践へと反映するようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人には、日々の会話によるコミュニケーションを通して生活への意向や要望を聞き、サービスの提供に努めている。また、家族の面会時や電話での対応の際に意見等を聞いたりして、出来る限り応じられるよう柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや出張理容等の交流を通じ、楽しみのある生活が送れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者、家族が馴染みのあるかかりつけ医との関係を大切に、出来る限り受診の対応も行うことで、かかりつけ医と事業所の関係を築けるよう努めている。</p>	<p>入居者は入居前からのかかりつけ医へ受診している。通院は、基本的に家族の同伴をお願いしているが、困難な時には職員が介助している。家族の安心のためケアマネージャーが積極的に診察に同行し、入居者の状況や家族の意向を医師に伝えるパイプ役を務め、情報の共有を図っている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>事業所内の看護師と情報を共有し、相談しながら支援している。受診時に医師や看護師から助言をいただく事もある。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の入退院の際には、こちらからは利用者の状況報告を行い、病院側からは退院時のサマリーにて情報提供を受けるなど、相互の連携体制がとれるよう働きかけている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>地域の事業所や病院など、関連する施設と連携をし、本人や家族の意向を受容しながら、サービスの提供に努めている。契約時や面会時に、家族と急変・重度化に関して話し合っている。</p>	<p>家族、医師、看護師との連携が不可欠な重度化、終末期の介護は現状では困難であり、入居者の身体状況に医療の必要性が強くなったら医療施設に移ることを家族と話し合っている。急変時の連絡先を個人別カードにして電話の側に置いてある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアル作成や救命救急講習を実施し、迅速な対応を心掛けている。また、救急隊に渡す利用者情報を準備している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、防災訓練を実施している。非常災害時に連絡する機関一覧をすぐに確認できる場所に掲示している。</p>	<p>併設事業所と合同で夜間を想定した避難訓練を行った。火災時の避難方法のDVDを見て課題を話し合い、電話の側に通報先だけでなく通報時の受け答えの内容も合わせて書いて貼るようにした。自動火災警報設備を設置しており、近くスプリンクラーも設置される予定である。</p>	<p>運営推進会議等を利用して、火災や災害について話し合い、地域の協力をお願いして、具体的な支援体制の構築に取り組んで欲しい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の守秘義務を契約書に明記し、契約時に説明している。また、職員には事業所内研修において周知徹底し、利用者、家族の人権・プライバシーにも思いやりを持って接し、気配りしながら支援に努めている。	毎月の定例会議で「声かけが命令口調にならない、子どもに対するような話し方をしない、プライバシーが含まれる私語にも注意する」など入居者とのかわり方をとりあげ話し合っている。プライバシー保護について所内研修も行われた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に配慮した声かけを心掛け、自己決定が出来たり、納得ができるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその人らしい生活が送れるよう、一人ひとりのペースを大切にして、自由に過ごしていただけるよう支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えを本人に選んでいただいたり、ハンカチや帽子等の小物もできるだけ本人の希望するものを身につけていただいている。また、居室の家具等も好きなものを持ち込んでいただき、自由にコーディネートできるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の好みを考慮しながら、献立を作り提供している。個々の能力に応じた準備や片付け等もお互いに協力して行っている。	食事は入居者の表情や検食の感想を参考に職員が献立をたて、家族からの野菜などの差し入れも利用して作っている。入居者は調理の下ごしらえや後片付けを手伝っている。食事時間は入居者のペースで進められ、食事に集中できなかったり眠くなったりする入居者にはさりげなく介助しながら食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量やバランスの取れたメニューを考え、提供している。水分に関しても、一日を通して定期的に摂取していただけるよう、声かけ・促しを行っている。また、毎日3食分の摂取量を記入し、一人ひとりの状態を把握するよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促し、誘導・見守り・介助を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけ・トイレ誘導・介助を行い、できる限りトイレでの排泄を行っている。排泄チェック表を使い、排泄のパターンをつかめるよう努めている。	排泄パターンをつかみ定期的に誘導しトイレでの排泄体験を積み重ねていきながら、入居時には大きかったおむつやパットを小さくする努力をしている。便秘にならないように、水分量を食事表に記入してチェックし、ヨーグルトや食物繊維の多いものをメニューに取り入れている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操・リハビリ体操を通して、日常的に運動する機会を作っている。また、バランスの取れたメニューを考えたり、ヨーグルトや食物繊維の多い食物を摂取することで、調整をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、午後に曜日・時間を決めて一人ずつ入浴していただいているが、その日の気分や体調に合わせ、臨機応変に対応している。	毎日午後が入浴時間で入居者は1日おきに入浴でき、体調によってはシャワー浴で対応したり、体力が心配な入居者は2日おきにするなど配慮している。脱衣所と浴室には床暖房があり、寒い季節にも暖かく入浴できる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングの環境整備や空調管理をこまめに行い、個々の希望の時間に就寝介助を行っている。日中も個人の体調や体力に応じて休息していただいたり、希望者には自由に休んでいただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際や変更になった際は、説明書を個人ファイルにとじて確認すると共に申し送っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、食事の後片付け・洗濯物たたみ・掃除等を依頼したり、運動や手作業等を行うことで、喜びや張り合いを持っていただけるよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は気分転換もかねてひなたぼっこや散歩を行っている。また、ドライブや外食など外に出掛けられるような行事を計画し行っている。	周辺を散歩するときは付き合いのある商店の方に挨拶をして、入居者を知ってもらっている。事前に足場やトイレの下見をして、全員で2台の車に分乗してドライブや外食にでかけている。出先で足湯を楽しむこともある。職員の提案で、日常的に入居者が欲しい物を買に行きなどの個別の外出支援を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に来るヤクルト販売で好きな物を選び、お小遣いからお金の受け渡しをいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの訴えがある場合は、先方の協力を得て電話の取り次ぎ支援している。手紙に関しても、本人と一緒にポストに投函しに行く等支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう共有部分を清潔にし、入居者と一緒に作成した季節ごとのちぎり絵を壁に飾り、季節感を取り入れている。また、その月の行事物(ひな壇、七夕の笹、クリスマスツリー)も展示している。	玄関正面の中庭にはホームのシンボルのもみの木が植えてある。廊下や食堂が中庭に面しているので明るく、食堂には天窓があり晴れると青空が見える。食堂に接して独立の洗面室があり、大きな鏡と中庭に面した明るさが快適な空間を生み出している。居間と食堂の間に台所があり、家庭的な雰囲気の中、職員は入居者と会話しながら食事を作っている。壁にはぬり絵や習字の作品が貼っており、入居者の歌声も聞こえている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置したり、フロアに腰をかけて休めるスペースがあるため、気軽に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス、小物等本人の好みの物、使いやすい物を持ち込んでいただけるようになっている。	居室はそれぞれ花の名前がつき、その花の写真つき名札が部屋の入り口に掲げられている。掃き出し窓には淡い色のカーテンがかけられ室内は明るく清潔感がある。間接照明やダウンライト、フットライトがあり、必要に応じて使い分けが出来る。ベッドサイドにはナースコールが設置されている。入居者が持ってきたベッド、安楽イス、衣装ケースなどが置いてあり、天気の良い日には南側のベランダで布団を干すことができる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室がわかりやすいように表示するなど工夫をして、安全かつ自立した生活が送れるよう努めている。		